

1 全般について

- ◆ 「ウェルビーイングが県の環境政策の最上位に目標付けられた。ウェルビーイングが何であるか、どのような状態がウェルビーイングなのか、説明していただきたい。」
- ◆ 「ESG投資など環境計画の資料に使われている専門用語専門用語については、きちんと説明書を加えていただきたい。特に、年代や対象者に応じた分かりやすい表現を意識してほしい。」
- ◆ 「課題があるところは一旦諦めて、方向を変えるということも大事ではないか。枠組みや考え方について大きく変えていくべきところは、変えていってほしい。」
- ◆ 「県民の環境に対する意識改革、ボトムアップを今以上に充実させるべき。」
- ◆ 「中間見直しにあたり、後から見直したときに、反映させた箇所を照合しやすいよう案を作成してください。」
- ◆ 「近年の社会問題と環境との関連を示して、喫緊の課題への対応策を明確にすることで県民の理解が深まるのではないか。」



第1回環境計画管理部会における主な意見

2 【施策の柱1】持続可能な社会をけん引する人づくりと県民総ぐるみによる運動の展開について

- ◆ 「学生環境ボランティアの活動に関連して、SNSの活用についても触れられていますが、現時点ではその具体的な活用方法が検討段階にあると思っていて、どうすれば効果的に県民や若者の環境意識の醸成や行動変容を促せるかについて、一緒に考えていきたい。」
- ◆ 「環境教育をやることでいろいろな教科に波及してプラスに働くということを教員に対しても普及していただきたい。」
- ◆ 「目標指標の「地域や社会をよくするために何をすべきか考える児童生徒の割合」については、非常に高いと思いますが、自分たちが実際何をしていくのかが不明確で、身の回りの友人を見ていても、行動に移している人はすごく少ないと感じる。そのため、行動の具体例を示すことで、学生がより主体的に関わりやすくなるのではないか。」

3 【施策の柱2】気候変動対策による環境と成長の好循環（グリーン成長）の実現について

- ◆ 「カーボンニュートラルの推進には、行政だけでなく民間企業との連携が不可欠であり、そのために他県の取組みを参考にすることも重要ではないか。」
- ◆ 「次世代自動車の普及率について、補助金などの具体的な政策でもう少し後押ししていただきたい。」
- ◆ 「気候変動に関しては、山形県だけではなくて、日本を先導するぐらいの決意をもって力を入れて取り組んでいただきたい。」



第1回環境計画管理部会における主な意見

4 【施策の柱3】再生可能エネルギーの導入拡大による地域の活性化について

- ◆ 「小さな単位で活用可能な再生可能エネルギーについて、市町村との連携を強化することが望ましい。」
- ◆ 「電力の安定供給のために重要な蓄電について、適切に明記いただきたい。」
- ◆ 「非化石エネルギー転換など国が今議論しているような省エネ対策を県もキャッチアップするべき。」
- ◆ 「災害時等に必要な電源を確保する施設設備の導入を積極的に進めていただきたい。」
- ◆ 「再生可能エネルギーの導入を推進していくためには、事業者と県民との合意形成や、地域環境等への十分な配慮が大切。そのための手続きを確実に実施していくということに意識を置いていただきたい。」
- ◆ 「再生可能エネルギー導入拡大にあたっては、安全性の確保についても留意していただきたい。」
- ◆ 「太陽光発電の屋根置き型や雪国対応型の導入を積極的に検討すべき。」

5 【施策の柱4】3Rの推進による循環型社会の構築について

- ◆ 「ごみの問題については、県と市町村それぞれが取り組むことなので、市町村との連携を深めていただきたい。」
- ◆ 「食品ロスの削減について、今まで以上に何をすべきなのか、見えるように書かないと進まないのかなと感じました。」
- ◆ 「県民のみなさんが、どうやって家庭ごみを減らしていくのかということについて、実行しやすいものを施策として検討いただきたい。」
- ◆ 「サーキュラーエコノミーに対応した新たな認定制度の導入を検討してはどうか。」
- ◆ 「環境省によるサーキュラーエコノミー診断など自治体向けの支援の活用を。」
- ◆ 「災害廃棄物処理計画に水害を盛り込むということは時代の要請。」



第1回環境計画管理部会における主な意見

6 【施策の柱5】生物多様性を守り、活かす自然共生社会の構築について

- ◆ 「生物多様性について、河川における生物多様性についても配慮いただきたい。」
- ◆ 「鳥獣被害について、人材の共有とありますが、具体策を示していただいた方がいいのではないか。」
- ◆ 「蔵王の樹氷復活に向けて、ぜひ具体的に行動計画を立てて進めていただきたい。」
- ◆ 「体感として最近かなり山に入る人が増えてきている。山小屋も非常に大切な施設ではあるが、登山道の重要なポイントとなる地点には、トイレの整備をお願いしたい。」
- ◆ 「百名山の利用者数について、人がたくさん来すぎるとオーバーツーリズムという問題もあるので、よほど少なくならない限りは、評価は「横ばい」とする方が妥当ではないか。」

7 【施策の柱6】良好な大気・水環境の確保と次世代への継承について

- ◆ 「P F A Sの問題について、令和8年から調査するということだが、これから研究も進んでいくと思うため、ただ分析するのではなくて、人に対する影響があるのかないのかというところも含めて検討していただきたい。」
- ◆ 「依然として水資源保全地域の指定が全市町村まで至っていないので、その市町村の温度差をぜひ埋めていただくように、今後も重点的に行ってほしい。」
- ◆ 「近年においては暑さや渇水などの気候変動の影響も顕著ですので、気候変動の項目もいれていきたい。」